



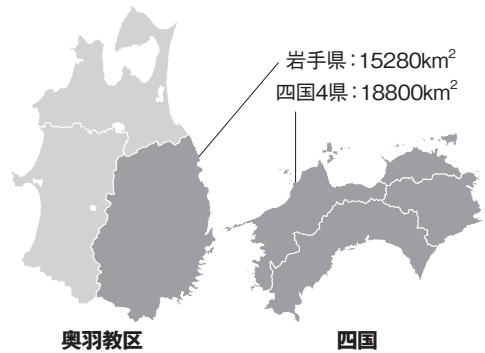
祈りの課題

奥羽教区

- 57教会・伝道所ならびに関係学校・関係団体・関係施設の宣教のために。
- 2019年度に教団を離脱した木造教会（現・木造キリスト教会）のために。
- 連帯・互助のための教区の働きが伝道につながるように。

北海教区

- 60教会・伝道所ならびに関係学校・関係団体・関係施設の宣教のために。
- どんな形でもつながることを、その方法を、希望の与えられることを。



広大な奥羽教区。岩手一県で
四国に近い面積を有する

奥羽教区

青森・秋田・岩手からなる奥羽教区は設立以来一貫して「一つなる教会」を唱えながら、「教区の教会性」を実現しようとしてきました。日本基督教団「教憲・教規」は教団と各教会を教会的主体性を持つものと定義しますが、その中間にある教区にできる働きを示して、広域に点在する諸教会の伝道に仕えていくことを願っています。

奥羽教区「宣教基本方針」に基づいて展開される宣教部・教師部による諸教会は共同の学びと親密な交わりに活用されています。隔年開催の全体修養会は近年でも170名

を超す参加者があり、交わりの中心となっています。地区ごとに実施する講壇交換礼拝には全教会・伝道所が参与しています。すべての教区構成員が見過ごしにされることのないよう、教区がいつも気を配って果たしている役割は小さくないと思います。そのために問安を従来から重視してきました。要請に応じてなされるものと共に、常に行っているものがあります。教会の一大事である主任担任教師の辞任に際しては、教区の定めた問安使が辞任の議題が出される役員会に陪席し、教会総会にも出席します。人事の道筋は各教会が主体的につけることですが、不慣れな事態に教会が困惑することも多く、教区が積極的に相談・助言することを心がけています。教師の就任式はもとより、着任1年の際にも通常問安を行って、教会が新たな牧師と共に順調に歩んでいるかを見守っています。

隣の教会まで車で1時間かかる場所も多く、教区問安使が半日がかりで駆け付けなければならぬ事例もあります。それでも、自転車や犬ぞりでこれをなしてきた先人たちに倣いつつ、愛する北東北の地に教会が立ち続けるため、教区としての務めに臨んでいます。（奥羽教区総会議長 飯田敏勝）

毎月第3主日は日本キリスト教団の定めた「日本伝道の推進を祈る日」です

共に祈るために

全国17教区が取り組んでいる伝道の働きを2教区（東京は支区）ずつ紹介します。全国の教区・教会・伝道所を覚えて祈りをあわせましょう。

献金についての問い合わせは
日本基督教団事務局まで（TEL 03-3202-0541）

北海教区

「日本伝道の推進を祈る日」の欄も2巡目になり、前回の執筆から大きく変わった出来事と言えば、やはり新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）です。移動や会話の距離、集まる人数に基準が設けられ、北海教区内の60教会の礼拝や集会、行事なども予想しない形で制限されました。これは教区の活動も然りです。

そういった中で、北海教区はオンラインでの会議や集会を積極的に進めてきました。コロナの中にあっても、できうる限りつながっていくためです。北海教区は連帯を常に念頭において活動していますが、その1つが人と人とのつながりと考えています。

11月21日（土）、「オンライン宣教協議会」を行いました。もともと宣教協議会は1月に開催される北海教区の代表的な集会「年頭修養会」（平均出席約350名）の後に、次年度の教区の活動計画と予算を検討する場として設けられていました。それを今年度は例年の内容と別に、「コロナの中で何に困ったか、何が必要であったか、今後何を求めるか」を語り合う場としたのです。30教会60名以上がオンライン上に集い、語り

合いました。

いずれの教会も礼拝出席がままならない中、大きな教会ほど教会会計が逼迫し、支えが必要であるという事実を知りました。会えないからこそ情報共有が不可欠であること、必要なことを覚え合い・語り合い・祈り合うという真実を感じることで大切な会でした。オンラインに不慣れな方の多い中、参加方法をできるだけ詳しく伝え、助け合ったからこそ開催できました。語り、知り、祈り、覚えることで、希望を与えられるこのような会をまた開催できたらと願っています。

（北海教区総会議長 原和人）



年2回発行の「北海教区通信」は大切な
情報共有ツール。北海教区のホームページで公開中